



『宇宙人のウキウキ夏休み』展

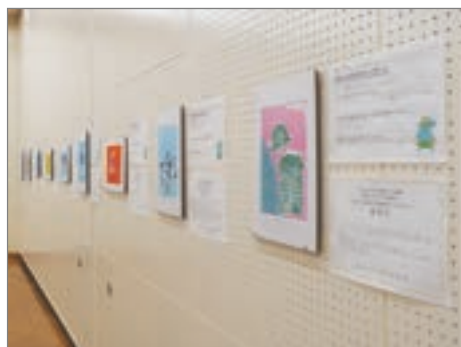
会 期：2022年8月9日(火)～13日(土)10:00～17:00

※ 8/9は13時より、8/13は15時まで

会 場：町田市立国際版画美術館 市民展示室A室



受講者25名の多色刷り版画を簡易額装し、子どもたちの発想や制作を通して感じたことなどが分かるように、ワークシートと感想文も一緒に展示した。また、コラグラフ技法の制作工程も分かるように、ビデオ上映とパネル展示を行った。特に、子どもたちの活動の様子を記録したビデオは好評だった。また、前年同様、版を使ったモビールの展示で会場内を装飾し、指導にあたった大学生11名のさまざまな版画表現も紹介した。期間中、259名が子どもたちの作品を鑑賞した。



【作品展示】子どもたちがどのようなイメージを持って制作したのか、活動の中で印象に残ったことなども知ることで、作品の見え方や楽しみ方も違ってきて面白い。



【ビデオ上映とパネル展示】制作の様子を工程順に編集したビデオや解説パネルを作り、子どもたちがどのようにしてコラグラフ版画に取り組んだか、分かりやすく紹介した。



【コラグラフ版によるモビール】使用した版も作品の材料となることを示した。切り抜き版のため様々な形がモビール全体に変化をつけている。ボランティア学生による展示。

受講者の声 (感想文より一部抜粋)

▶たくさんできたからたのしかったです。(中略)お兄さんがたくさん教えてくれたり助けてくれたのですごくいい作品ができました。(3年) ▶色いろな、どうぐや、あどばいすで、きれいなさくひんがで、とてもいい宇宙人ができてうれしいです。またらい年もきたいです。(3年) ▶はんがは、たのしくて、まるでじぶんの時間のようでした。かんせいしたとき、すっきりした。(3年) ▶さいしょはきんちょうしていたけれど、おねえさんのおかげできれいにできました。そしてわたしは版画をすきになりました。(4年) ▶はさみで宇宙人を切るときかたくて切るのがたいへんでした。でも、作っていてとても楽しかったです。(4年) ▶版画をしていて、刷るときに、写らないところをなくすために、強くおして、作りました。作った宇宙人といっしょに、遊びたいと思いました。(5年) ▶色々待っている時間にぬり絵とかできたし、はい景の色を自由に選べたから楽しかった。お姉さんといっしょに楽しくできてよかった。(5年) ▶とくに宇宙人をデコレーションするところが楽しかった。どのような「がら」にしようか考えながら、その宇宙人のテーマにあっているか考えた。(6年)

学生ボランティア

加藤 和 川島 美月 趙 嘉琪 峯山 文萌 森下 真衣 横田 奈帆
岩崎 さくら 大矢 夏穂 久保田 美菜 阪本 裕仁 舘澤 舞
今井 ゆたか 荻野 夏実 榎本 翠 福嶋 亜依

2022 年度「夏期子ども講座」活動報告書

発行年月日 2022 年 11 月 30 日

編集・印刷 東京学芸大学版画研究室 清野泰行
発 行 町田市立国際版画美術館

この冊子は100部作成し、1部あたりの単価は385円です(職員人件費を含みます)

2022

町田市立国際版画美術館
2022 年度夏期子ども講座 活動報告書

宇宙人のウキウキ夏休み ～いろいろな材料で版画を作ってみよう!～



町田市立国際版画美術館では、子どもたちが美術館に親しむことをねらいとして、2006年から継続的に「夏期子ども講座」を実施しています。当初から東京学芸大学版画研究室の清野泰行教授の企画協力により、さまざまな版画技法を取り上げ、制作する楽しさをじかに体験してもらう場を提供してまいりました。新型コロナウイルス感染症の影響がまだ残る状況での開催となりましたが、子どもたちの想像力や発想力を発揮できるように「宇宙人」をテーマにした講座内容をご覧ください。

講座概要

タイトル：「宇宙人のウキウキ夏休み ～いろいろな材料で版画を作ってみよう!～」
内 容：厚紙に紐、薄紙、シール、アクリルメディウムなどを使ったコラグラフ版画で空想の世界を作る
日 時：第1回 7月30日(土)、第2回 7月31日(日) 12:30 ～ 16:00
会 場：町田市立国際版画美術館 アトリエ
対 象：小学3～6年生 定員：16名(各回) (応募者数：1回目62名、2回目55名)、 受講料：1,000円
指 導：東京学芸大学 清野泰行および同大学在学学生
募集期間：6月14日(火)正午～7月11日(月)
主 催：町田市立国際版画美術館 企画 / 協力：国立大学法人東京学芸大学

コラグラフとは

コラグラフは、紙やレース、葉などさまざまな素材を台紙に貼ったり、メディウムなどを塗ったりして作る版画です。本講座では、水溶性版画絵具を付けた背景の版の上に宇宙人の形に切り抜いたコラグラフの版を重ね、バレンや指でこする多色刷り版画を作りました。

準備するもの 【下 絵】：ワークシート・下絵シート（受講者に事前送付）、オリジナル図案集、トレーシングペーパー
【版制作】：ドライポイントプレート（紙製・270×195mm・1人2枚）、白ボールペン、ニードル、鉛筆、筆、竹串、はさみ、ピンセット、ガイド（版・紙をおく位置を示したもの）、ドライヤー
【コラグラフ用材料】：紙、シール、ひも、レース、アクリルメディウム、クラフトパンチ、他
【刷 り】：版画用紙（特スキ和紙・八切）、サクラ水溶性版画絵の具、スポンジローラー、紙へら、バレン、インクトレー、食品用ラップフィルム（インクトレーのカバー用）、新聞紙

宇宙人（コラグラフ）の版制作

制作の説明

（10分）



【コラグラフの材料(上部)】版作りのためのさまざまな素材を、あらかじめ各作業台の上に用意して、「これから何を始めるのだろうか?」と子どもたちにワクワク感を持たせるようにした。



【コラグラフ技法の説明】版作りの説明は、「密」を出来るだけ避けるために、実演ではなく、プロジェクターを使って工程順に説明した。制作全体の見通しが立つことで、初心者にも分かりやすかった。

版制作

（60分）



【宇宙人の転写】下絵用紙にトレーシングペーパーをのせて鉛筆で宇宙人を写した。次にトレーシングペーパーを裏返して、ドライポイントプレートに転写した。本講座ではグレー面を表として使用した。



【宇宙人版の切り抜き】宇宙人が写し終わったら、ハサミで切り抜いた。台紙は厚みがあったので、中学年は切るのが大変だったようだが、みんな器用に切り抜くことができた。



【描画】台紙となるドライポイントプレートの表面をボールペンやニードルで強めに描いた。その部分は溝になるため、刷った時はその部分には絵具が付かず描画線どおりに白く抜ける。



【メディウムによる版制作】アクリルメディウムを竹串で盛り上げて点を作ったり、筆跡を生かした表現に取り組んだ。クラフトパンチで切り抜いた紙を使って版作りを楽しむ姿も見られた。

宇宙人の版と背景の版の合わせ刷り

試し刷り

（15分）



【混色と色のせ】インクトレーに出した絵具を紙べらで混ぜながら好みの色を作り、スポンジローラーで宇宙人の版にのせた。版の凹凸の形を出すために、絵具を付け過ぎないように刷ることが大切だ。



【試し刷り】汚れを拭き取りやすいように透明のケースに入れたガイドを使い、宇宙人の版の試し刷りを行った。内側の画面枠内に宇宙人の版をおき、紙は外側の枠に正しく合わせてから刷った。

本刷り

（45分）



【背景の版の準備】白い光沢のある面を表として使った。絵具をのせてから、割りばしや竹串などで絵具を取り除いたり、パンチで切り抜いた型紙でマスキングするなど、色々な刷りの工夫が見られた。



【2つの版の合わせ刷り】絵具をのせた背景の版の上に宇宙人の版をおき、そこに版画用紙をのせて一気に刷った。宇宙人の版に厚みがあるため、白い輪郭線のある刷りになるのが特徴である。



【コラグラフによる多色刷り】版画はめくってみるまで、出来上がりが分からないから面白い。バレン、手のひらや指のこすり方次第で、さまざまな調子を出すことが出来た。



【作品選び】刷りの魅力は、同じものが作れることと、絵具の色を変えるだけで、色違いの作品を自由に作られることだ。子どもたちは展覧会に出品する版画作品を1点選んだ。

記念撮影



【1回目の受講者のみなさん】

今回の子ども講座は出来るだけ多くの子どもたちに参加してもらうことを考え、一日で完成でき、版作りも刷りも楽しめる技法で実施した。短い活動時間だったが、一人一人の個性が光る素敵な作品が完成した。



【2回目の受講者のみなさん】